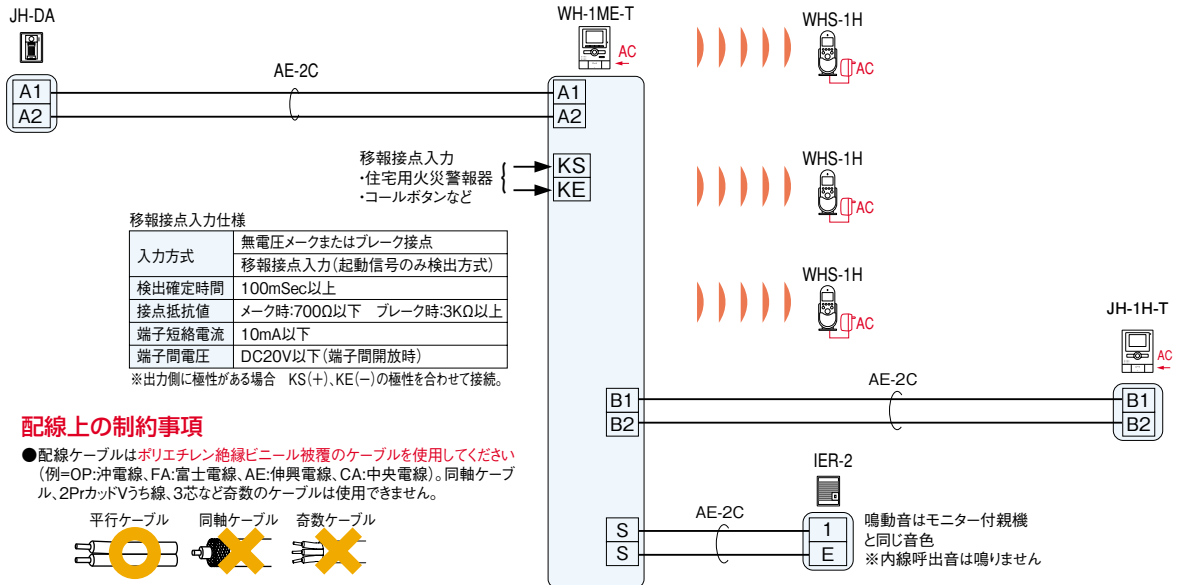


■接続図例

← AC100V直結 □ AC100V

■カメラ付玄関子機1台、モニター付親機1台、ワイヤレス増設親機3台、モニター付増設親機1台を設置した例



移報接点入力仕様

入力方式	無電圧メークまたはブレイク接点
移報接点入力	移報接点入力(起動信号のみ検出方式)
検出確定時間	100mSec以上
接点抵抗値	メーク時:700Ω以下 ブレイク時:3KΩ以上
端子短絡電流	10mA以下
端子間電圧	DC20V以下(端子間開放時)

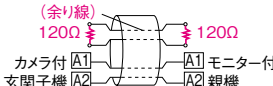
※出力側に極性がある場合 KS(+), KE(-)の極性を合わせて接続。

配線上の制約事項

●配線ケーブルはポリエチレン絶縁ビニール被覆のケーブルを使用してください(例=OP:沖電線、FA:富士電線、AE:伸興電線、CA:中央電線)。同軸ケーブル、2PrカッドVうち線、3芯など奇数のケーブルは使用できません。



●2芯以外で余り線がある場合は、下図のように余り線の両端に120Ωの抵抗をつないでください。(通話ができないなど正常に動作しなくなる恐れがあります。)



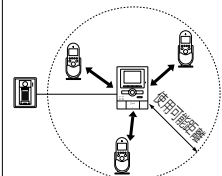
●配線ケーブルは強電線(AC100V、200V)とは30cm以上離して配線してください。ノイズや誤動作の原因となることがあります。既設の配線を利用する場合は、その線の種類によっては正常に動作しないことがあります。そのときは配線の入替えが必要となります。

■使用上のご注意

- 機器から30cm以内の距離で通話してください。離れすぎると音声が届き取りにくくなることがあります。
- 機器のまわりの音が騒がしいとき(子供の泣き声、ステレオの音響など)は、音声とぎれて聞き取りにくくなることがあります。
- 通話するときは相手の話が終わらないうちに話すと、声とぎれて聞こえることがあります。話がいったん終わったところで話すとはスムーズな会話ができます。

⚠️ ご注意

- ワイヤレス増設親機は、モニター付親機から電波が届く範囲内で使用してください。
- モニター付親機の電源が入っていないとワイヤレス増設親機は使用できません。
- モニター付親機と玄関子機の間は配線が必要です。
- モニター付親機、ワイヤレス増設親機は防滴タイプではありません。



■ワイヤレス増設親機の使用について

- 充電端子の汚れは乾いた布や綿棒などでこまめに拭く→充電不足の原因になります。
- 盗聴にご注意→デジタル信号を使用しているため、盗聴されにくい仕様となっておりますが、電波を使うため第三者が故意に傍受するケースが考えられます。
- 見通し距離100m以内
→モニター付親機とワイヤレス増設親機の間にも障害物がない場合、見通し約100m以内の距離で使えます。通話をして、電波の届く範囲をあらかじめご確認ください。



→モニター付親機の電源が入っていないと、ワイヤレス増設親機は使用できません。

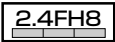
- 電波が届きにくいときはモニター付親機に近づくか場所を変える→距離が離れている、または次のような場合、電波が弱くなり通話できないことがあります。
(電波が届きにくくなるもの)
・壁を何枚も隔てたところ
・モニター付親機と別の階や家屋などで使うとき
・鉄筋、鉄骨を使用した建物や構造物、コンクリートやトタン製の壁、金属の扉、金属箱のついた断熱材、金属製の壁や家具など

■音声のとぎれや雑音を避けるために

- 以下の機器と相互に影響を及ぼす場合は3m以上離してください。
- ファクシミリ、電子レンジ、テレビ、冷蔵庫、蛍光灯、スピーカー、パソコンなど
・磁気や蛍光灯など→ワイヤレス増設親機の通話がとぎれる原因になります。
 - ・テレビ、ラジオなど→雑音や画面が乱れるなど受信障害の原因になります。
 - ・AV、OA機器など→ワイヤレス増設親機の叫出音が鳴らないことがあります。
 - ・他の機器(携帯電話などの充電器や電源アダプターなど)→ワイヤレス増設親機の通話がとぎれたり叫出音が鳴らないことがあります。
 - ワイヤレス増設親機は中央部より下の部分を持って通話する。
・ワイヤレス増設親機の上部にアンテナが内蔵されていますので、そこを握ると、電波の飛びが悪くなる場合があります。
 - 捕聴器によってはワイヤレス増設親機の通話に雑音が入ることがあります。
 - 動きながら通話したり、近くを自動車やバイクが通ると声のとぎれや雑音が入ることがあります。

■電波について

本機は、2.4~2.4835GHzの全帯域を使用する無線設備です。移動体識別装置の帯域が回避不可能で、変調方式は「FH-SS方式」、与干渉距離は80mです。本機には、それを示す右記のマークが貼付されています。



電波に関するご注意

- 本機の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医用機器のほか、工場の生産ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)及び特定小電力無線局(免許を要しない無線局)ならびにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。
- 1.本機を使用する前に、近くで移動体識別の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
 - 2.万一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、混信回避のためのパーティションの設置や設置場所の移動を行ない互いに干渉が起きないようにしてください。
 - 3.その他、本機から移動体識別用の特定小電力無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、当社お客様相談センターへお問い合わせください。

その他のご注意

本機は、2.4GHz(ギガヘルツ)の周波数帯の電波を利用しています。この周波数帯の電波は、いろいろな機器(電子レンジ、無線LAN機器など)が使用していますので、電波の干渉により、本機や他の機器の動作や性能に影響を及ぼすことがあります。本機は電波干渉の影響を受けにくい方式ですが、下記の内容に注意してください。

- 本機は電子レンジなどから離して設置してください。(目安:約3m以上)
→電子レンジなどを使用中に、近くでワイヤレス増設親機を使用したり、モニター付親機・ワイヤレス増設親機の間を電子レンジがあると、通話がとぎれたり、使えなくなることがあります。
- モニター付親機・ワイヤレス増設親機を無線LAN機器からなるべく離してご使用ください。(目安:約3m以上)
→無線LAN機器(ルーター、AV機器、防犯機器など)を使用している環境で本機を使うと、通話がとぎれたり、無線LAN機器の動作に大きな影響を与えることがあります。(本機は、ワイヤレス増設親機で通話していない場合でも、電波を送信しています)
- その他、下記の機器でも2.4GHzの周波数帯の電波を使用しているものがあります。なるべく、設置場所や使用場所を離してください。(目安:約3m以上)
→これらの機器周辺では、声のとぎれや、使えなくなることがあります。また、相手の機器の動作に影響を与えることがあります。

・デジタルコードレス電話機(FAX)・火災報知器・工場や倉庫などの物流管理システム・マイクロ波治療器・自動ドア・自動制御機器・アマチュア無線局・ワイヤレスAV機器(テレビ、ビデオ、パソコンなど)・鉄道車両や緊急車両の識別システム・ゲーム機のワイヤレスコントローラー・万引防止システム(書店やCDショップなど)・その他Bluetooth™対応機器やVICS(道路交通網システム)など